第 2013-22 号

恵みと真理のニュース

2013 年 7 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　信じ祈って喜びを得、神様に栄光を捧げました。

私は子供のごろ教会は通いましたが親の ひどい反対で頑張って礼拝する事や教会生活は出来ませんでした。青年になって主と離れて生活しながら 1991 年結婚しました。旦那がやっていた事業が大変で私はストレスで体と心が衰えている時 1996 年家の近くに住んでいる区域長に伝道され恵みと真理教会に通うようになりました。最初は教会が大きくて聖徒も多くて当時には対人忌避症もあったのですぐ心を開けませんでした。そのごろ IMF　経済危機が襲って旦那の事業もとうとう不渡りになってしまいました。家と事業を全部かたつけた後、残ったお金がなくて家を借り家賃払いの家で住むしかなかったです 。そのような、苦難の中ではじめて私は心を開いて主の前に出ました。主は私がすぐお金を稼ぐことに力を入れるより主の恵みと愛を切に愛しながら涙を流しながら祈るようにさせました。その時私が教会に通うことを旦那と舅姑も嫌がっていて 2 年間教会に登録もせずに 4 歳の息子と礼拝に参加しました。まず私の信仰が成長し完全に主日の礼拝を守るように祈りました。また、教会に行く私を迫害する旦那と親戚を哀れんでくださり救ってくださるように祈りながら福音を伝えました。神様が私の祈りに答えてくださり 2000 年旦那と舅姑を救ってくださいました。特に旦那が結信する日、家で家庭礼拝を捧げながら大きく賛美を捧げる日の喜びと感動は今まで忘れられません。舅姑はソウルからアンサンまで毎週主日に来られ私たちと礼拝を捧げ私の生活が安定され家族が健康になるように祈りました。神様は私がこのように礼拝と祈りに力を入れると事業の不渡りで落胆した旦那に世のことよりも尊い信仰を与え慰めてくださり希望を与えてくださいました。
聖霊に満たされた執事達に出会い聖歌隊で共に奉仕しながら礼拝を休まずに捧げ多くの恵みを与えてくださいました。旦那にも 2 年後には男性区域長の職分もくださりよく担えるように導いてくださいました。また、旦那に助け人を与えてくださり、また仕事をし徐々に安定するようになり新しい家で引越しして家庭に活力が溢れるようにしてくださいました。私の二人の子供たちも教会学校に行って信仰を育ちながら子供の聖歌隊で奉仕しました。しかし、小学校の 4 年生の長男がクラスメイトからいじめられいじめをした子が憎んで学校に行きたがらなかったです。私は泣きながら神様に祈りました。息子に知恵を与えてくださりよく克服するように導いてくださいと祈りました。そして
“ しかし， わたしは 言っておく． 敵を 愛し， 自分を 迫害する 者のために 祈りなさい． 自分を 愛してくれる 人を 愛したところで， あなたがたにどんな 報いがあろうか． 徴税人でも， 同じことをしているではないか． （マタイの福音書　4 書 44、46 節）
神様がくださった知恵で息子に先に行ってイエス様の心で“あなたがいくら私を嫌われて憎んでも私はあなたが好きだよ。私は誰よりあなたと親しい友達になりたい。堂々に言いなさい。とさせました。息子は何回もその子に断られ侮辱を受けましたが諦めず祈って忍耐しました。そして、2 年に立ち学校で一番仲いい友達になりました。

次号に続く

［信仰コラム］　妥協（だきょう）したり、譲歩（じょうほ）できない信仰（しんこう）

イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。（ヨハネ　14:6）

聖書（せいしょ）の言葉（ことば）を我田（がでん）引水（いんすい）に解釈（かいしゃく）したり、無理（むり）に解（と）いて適用（てきよう）して教（おし）える行為（こうい）は罪悪（ざいあく）です。実（じつ）に悲劇（ひげき）的（てき）で、深刻（しんこく）な事実（じじつ）は聖書（せいしょ）を歪曲（わいきょく）されるように解釈（かいしゃく）して教（おし）える者（しゃ）たちによって数（かず）多（おお）くの魂（たましい）が滅亡（めつぼう）に直面（ちょくめん）することになることです。このような行為（こうい）は名声（めいせい）を得（え）たり財物（ざいぶつ）を蓄積（ちくせき）するための目的（もくてき）の下（した）行（おこな）うー（いち）種（しゅ）の詐欺（さぎ）行為（こうい）であり、聖職（せいしょく）に対（たい）する背任（はいにん）行為（こうい）です。、イエス・キリストだけが救世（きゅうせい）主（しゅ）と叫（さけ）びながら、一方（いっぽう）では宗教（しゅうきょう）多元（たげん）主義（しゅぎ）組織（そしき）に加（く）わったか彼らの主張を黙認することも神様の前で犯罪の行為です。救援（きゅうえん）の真理（しんり）について話（はな）そうとする人（ひと）は、記録（きろく）された神（かみ）様（さま）の言葉（ことば）である聖書（せいしょ）の外（そと）に乗（の）らないでください。聖書（せいしょ）に記録（きろく）されているキリスト教（きょう）の本質（ほんしつ）から外（はず）れて根幹（こんかん）から離脱（りだつ）した神学（しんがく）、教理（きょうり）、哲学（てつがく）、思想（しそう）はキリスト教（きょう）をなくすためにサタンが使用（しよう）するツールです。キリスト教会（きょうかい）を蚕食（さんしょく）して無力（むりょく）化（か）させようとする悪魔（あくま）の詭計（きけい）はとても食えないです。そしてその組織（そしき）と力（ちから）はますます増大（ぞうだい）されています。その中（なか）で最（もっと）も強力（きょうりょく）な国際（こくさい）的（てき）な組織（そしき）体（たい）がWCCです。WCC神学（しんがく）者（しゃ）たちはこの世（よ）を神（かみ）様（さま）の統治（とうち）領域（りょういき）という点（てん）で神（かみ）様（さま）の国（くに）と同一（どういつ）視（し）します。そして世界（せかい）は神（かみ）様（さま）と和解（わかい）がなった所（ところ）であり、すでにこの世界（せかい）は救（すく）われたという万（まん）人（にん）救済（きゅうさい）論（ろん）を主張（しゅちょう）します。教会（きょうかい）の歴史（れきし）と世俗（せぞく）の歴史（れきし）そして救援（きゅうえん）社（しゃ）と俗（ぞく）事（こと）という二（ふた）つの歴史（れきし）観（かん）を否定（ひてい）します。キリスト人（ひと）たちが不信者（ふしんじゃ）たちへ行（い）って宣教（せんきょう）することが不要（ふよう）と主張（しゅちょう）しています。キリスト教（きょう）地域（ちいき）と非キリスト教（きょう）地域（ちいき）そして信者（しんじゃ）と不信者（ふしんじゃ）を区別（くべつ）してはならないと主張（しゅちょう）します。各（かく）宗教（しゅうきょう）が彼（かれ）らの大人（おとな）たちと殉教（じゅんきょう）者（しゃ）を持（も）っており、万一（まんいち）、ある宗教（しゅうきょう）が他（ほか）の宗教（しゅうきょう）の大人（おとな）たちを異端（いたん）者（しゃ）でみると、それは愚（おろ）かなものとしてキリスト教（きょう）徒（と）が真理（しんり）を独占（どくせん）できないために、今回（こんかい）の信徒（しんと）たちと理念（りねん）主義（しゅぎ）者（しゃ）たちを会（あ）わなければならないと主張（しゅちょう）します。今（いま）は教会（きょうかい）連合（れんごう）に関（かん）する関心（かんしん）がなく、人類（じんるい）連合（れんごう）に関（かん）する目的（もくてき）を持（も）って、過去（かこ）的（てき）な教会（きょうかい）間（かん）の対話（たいわ）を越（こ）えて他（ほか）の宗教（しゅうきょう）との対話（たいわ）を通（つう）じて世界（せかい）共同（きょうどう）体（たい）の形成（けいせい）のための目的（もくてき）として、すべての宗教（しゅうきょう）人（じん）が協力（きょうりょく）をしなければならないと主張（しゅちょう）します。宣教（せんきょう）は神（かみ）様（さま）をキリスト教（きょう）や教会（きょうかい）というある特定（とくてい）のところに閉（と）じこめるのだとしたため、宣教（せんきょう）の必要（ひつよう）性（せい）を否定（ひてい）します。シンクレティズムと二（に）重（じゅう）性（せい）で、福音（ふくいん）的（てき）信仰（しんこう）を持（も）った団体（だんたい）と信徒（しんと）たちを混乱（こんらん）させ、迷（まよ）いします。今（いま）はそのどの時（とき）より聖書（せいしょ）に記録（きろく）された終末（しゅうまつ）の兆候（ちょうこう）が明（あき）らかになっています。予言（よげん）された言葉（ことば）が着々（ちゃくちゃく）と現実（げんじつ）になっています。まるで滝（たき）に向（む）かって流（なが）れる川（かわ）の水（みず）が滝（たき）に近（ちか）づくほど流速（りゅうそく）が速（はや）くなると思（おも）います。敵（てき）・キリストが登場（とうじょう）するように舞台（ぶたい）がほとんど全部（ぜんぶ）して作（つく）られています。かえりみるべきはずだがむしろ逆行（ぎゃっこう）する教会（きょうかい）が増（ふ）えています。″もしある人がきて、わたしたちが宣べ伝えもしなかったような異なるイエスを宣べ伝え、あるいは、あなたがたが受けたことのない違った霊を受け、あるいは、受けいれたことのない違った福音を聞く場合に、あなたがたはよくもそれを忍んでいる″（コリンドの信徒への手紙二11:4）という聖書（せいしょ）の話（はなし）が今日（きょう）日（ひ）、教会（きょうかい）の現実（げんじつ）をよく物語（ものがた）っています。間違（まちが）った教理（きょうり）を追（お）って行（おこな）う者（もの）について大胆（だいたん）に彼（かれ）らの過（あやま）ちを指摘（してき）してくれるべきです。これが神（かみ）様（さま）の中（なか）での真（しん）の愛（あい）です。教会（きょうかい）の指導（しどう）者（しゃ）たちは宗教（しゅうきょう）多元（たげん）主義（しゅぎ）と宗教（しゅうきょう）混合（こんごう）主義（しゅぎ）に対（たい）して積極（せっきょく）的（てき）に対処（たいしょ）していくようにお互（たが）いに励（はげ）まして協力（きょうりょく）しなければいけない。まだ韓国（かんこく）には聖書（せいしょ）通（どお）りの信仰（しんこう）を堅持（けんじ）する神学（しんがく）者（しゃ）と教会（きょうかい）の指導（しどう）者（しゃ）たちがたくさんあって、WCCの正体（しょうたい）を鮮明（せんめい）にさらけ出（だ）した論文（ろんぶん）を発表（はっぴょう）して本（ほん）を発刊（はっかん）しているので、幸（さ）いなことです。″しかし、たといわたしたちであろうと、天からの御使であろうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろわるべきである。わたしたちが前に言っておいたように、今わたしは重ねて言う。もしある人が、あなたがたの受けいれた福音に反することを宣べ伝えているなら、その人はのろわるべきである。″（ガラテヤの信徒への手紙1:8、9）しました。皆（みんな）さんは、妥協（だきょう）や譲歩（じょうほ）せず聖書（せいしょ）通（どお）りの信仰（しんこう）をいつも堅持（けんじ）してください。そして聖（せい）なる行（ぎょう）いと敬虔（けいけん）さで、神（かみ）の日（ひ）が取（と）り組（く）むことを眺（なが）めて心（こころ）から思慕（しぼ）しながら生（い）きように願（ねが）います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

つくして 愛しなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

永生を得て天国に入るためには必ず捨てなければならないことがあって，必ずなければならないことがあります．この二つはいくら繰り返えして強調しても度が外れないです．心に深く聞かなくて軽んじて聞く人がいるかと言えば，誤った観念が深く付いている人があるからです．

第一、永生を得ようとすれば誤った観念を果敢に捨てなければなりません．

“善良な行実が救いを得る要件だ．” という観念は救いを得るのに決定的な障害になる誤った観念たちの中に一つです．人々が永生と天国と救いに関して分かる願うことは東西古今が違いないです．イエス様が世の中にいらっしゃった目的は人々に救いをくださるためなのです．イエス様が天国福音を伝えたらイエス様がいらっしゃる所にはいつも人々が集まって来ました．こんな人々の中には積極的で大胆にイエス様に来て永生を得る道に対して質問した人々がいました．
ある日一人がイエス様前に駆けて来てひざまずきました．この人はわかくて大きい金持ちで高い官職にあり律法をまじめに遂行する人と紹介されました．彼はイエス様に “私が何をすれば永生を得ますか?” と質問しました．彼はそれなりに善良な事に力をつくして宗教的戒律を守って来ました．しかしそれ位の行うことで果して永生を得ることができるか確信することができなかったとか自分の行為に対してイエス様から肯定的な答を得ようと思いました．彼がイエス様を向けて “善良な先生”と呼ぶとイエス様がその青年を向けて “あなたがどんな理由で私を善良だ称えるのか神様ひとり外には善良なかたがいない．” しました．彼はイエス様がただ人間として卓越な知恵と能力を持った先生だと思いながら “善良だ”と言う形容詞を付けて言いました．彼が人間の相対的な善を念頭に置いて，イエス様をその同じ善を行う先生と思って永生の真理を問おうと思ったことはその出発点から誤ったのをイエス様が指摘したのです．人々は善をしきりに積んで行けばこの善が自分の罪を相殺する結果をもたらすはずだという誤れた考えを持ったりします．善を行って罪が消えることは決してないです．善良な仕事は勧奨する仕事です．しかしその善良な仕事を通じて永生を得るとか救いに至るとか天国へ行くという考えを持ったらこれはむしろ天国に進む道をふさぐ弊端をもたらします．
“戒めを守るのが救いの要件だ．” という観念も救いを得るのに決定的な障害になる誤った観念たちの中に一つです．このような観念が金持ち青年にもありました．これを突き通して見たイエス様が金持ち青年におっしゃいました．
“あなたが戒めを知っているか だから人殺しをするな，姦淫するな，盗みをするな，偽り証拠するな，あざむいて取らわないで，あなたの親をうやまいなさいとしました．” すると金持ち青年は直ちに答えるのを “先生よ これは私が幼いごろからすべて守って来ました．” しました．彼は律法の要求するところが何なのかよく分からなかったまま律法を守ると労力して来た人でした．そして自分の基準に合わせて律法を理解して遵行して来たのです．イエス様は永生の真理が分かろうとするその青年のまじめと熱情を珍しく見ました．しかし一方ではその青年が今まで暮して来ながら自ら行った事が永生を得るのに適当だという判定を受けようと思うその姿に憐愍の情を感じたはずです．そうとしてもイエス様がその青年を誤れていつわりでむなしい観念と信仰にとどまっているように捨てておかなかったです．
誤った認識と観念から脱するようにするためにイエス様が青年におっしゃるのを “あなたにむしろ一つ不足なのがあるから行ってあなたにいることを売り切って貧しい者等を与えそんなにすれば天で宝があなたにいるとその後来て私を従いなさい．” しました．イエス様がその金持ち青年に戒めを守るということが何を意味するかを教えてくれようとしたのです．その青年が戒めを守ったと言うことはその戒めを自分それなりに解釈してその範囲の中から守って来たということを悟るようにしようとするのです．律法を守ろうとすれば神様が要求し次第に律法遵守をしなければなりません．たとえ自分の所有を売り切って貧しい者に与えると言ってもそれで戒めが要求し次第にさいわいになるのではないです．他人の品物をむさぼれば盗みを働いたことのようであり，人を憎む考えだけでも人殺しをしたことと同じ犯罪行為で見做すのが律法です．それだけではなくすべての律法をすべて守ってもただ一つさえやぶればすべての律法をすべて破ったことになることが律法です．だから律法で義のあるようになる人はいないです．律法を守って神様が要求する義のあることを持つことができる人は一人もないです．聖書にこのように記録されました．“さて、わたしたちが知っているように、すべて律法の言うところは、律法のもとにある者たちに対して語られている。それは、すべての口がふさがれ、全世界が神のさばきに服するためである。なぜなら、律法を行うことによっては、すべての人間は神の前に義とせられないからである。律法によっては、罪の自覚が生じるのみである。”（ローマ人への手紙 3:19,20)．律法は私たちが罪人になったことを如実するように現わす事をします．イエス様はこの若い金持ち官員がその多い財物をすべて処分して貧しい者に分けてやる事は決してできないことをよく分かっていました．金持ち青年はイエス様の言葉を聞いてその席から “イエス様，私が律法では義のあるようになることができないことをもう分かりました．私を助けてください．” と叫ばなければなりません．ところで金持ち青年は “悲しい気配で” “はなはだしく心配して” イエス様を立ち去ってしまいました．
“すべての宗教は永生で進む関門だ．” という観念も救いを得るのに決定的な障害になる誤った観念たちの中に一つです．幾多の人々がこんな誤った認識と観念によって永生得る道をそっぽを向いて滅亡の道に行っています．
宗教多元主義の思想に染まった基督教会リーダーたちはこんな誤った観念を教会に注入させる役目をします．真実のクリスチャンたちはこんな者等が教会を散らかすことができないように力を合わせて対処して行かなければなりません．

第二、永生を得ようとすれば主神様を愛しなければなりません．

永生得る道は神様を愛しなさいという言葉から出発します．神様を愛しようとすれば先に神様の愛を受け入れなければなりません．ヨハネ1書 4章9節と10節にこんなに記録されています．“神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。” と言いました．人生を向けた神様の愛は人間の生存に必要なすべてのものをくださって治めることに証明されています．私たちが生きて行くのに必要なすべての物質と自然環境は神様がくださった贈り物です．
私たちに現わした神様の愛の圧巻は私たちを生かすために自分のイエスキリストを世の中に送ったのです．罪を犯して不義して永滅する人生を救いしようと自分のイエスキリストを世の中に送って人生たちの代わりにして和睦のいけにえのお供えになるようにしました．これは人間の理解を超越する愛です．その愛の道と広さと高さと深みは終りがなくてすべて測量することができないです．私たちが神様を愛するから神様が私たちを愛したのではないです．偶像崇拝と人本主義に生きて行く人生たちのために神様が一方的に愛を施しました．このような神様の愛を悟ってイエス様を迎えて信じてまた感謝することで生きて行くのが神様を愛する基本姿勢です．
神様を向けた愛は 100% 愛ではなければなりません．今日の本文に “イエスは答えられた、「第一のいましめはこれである、『イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。” しました．神様を愛する姿勢は 99%ではなく 100%ではなければならないです．イエス様に対する信仰 90%に 自分の行為 10%を加えれば神様を 100% 愛しなさいという言葉を逆らうのがなるわけです．イエス様に対する信仰 99%に偶像崇拝行為 1%が加われば偶像崇拝者に取り扱いされてしまいます．偶像崇拝者たちは信仰と信仰の対象を自分の欲求充足のための手段で思います．神様を愛する人は神様を愛するのが信仰の理由で目的です．
愛する皆さんは永生を得る道を塞ぐ誤った観念たちを徹底的に捨ててください．“善良な心と善良な行実が救いを得る要件だ．” という観念，“戒めを守るのが救いの要件だ．” という観念，“すべての宗教は永生で進む関門だ．” という観念が残っていれば根を絶ってしまってください．そして “あなたの心をつくして，命をつくして，思いをつくして，力をつくして主神様を愛しなさい”と おっしゃった言葉のどおり生きて行ってください．イエス様の外には救いの道がないことを固く信じて伝えながら生きて行ってください．